

今月のコンテンツ

- 第30回日本疫学会学術総会報告
- 第90回日本衛生学会学術総会（誌上開催）報告
- 今月のお知らせ
- （広報担当）深謝

構成学会の学術総会よりのご報告

第30回日本疫学会学術総会を終えて

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野

中山健夫



このたび第30回学術総会—メインテーマ「疫学と隣り合う諸科学：共にさらなる発展を」—を2020年2月20日～22日に京都大学百周年時計台記念館・国際科学イノベーション棟で開催させて頂きました。本稿執筆中の2020年3月28日、新型コロナウイルスのパンデミック、それに由来するCOVID-19に社会が大きく揺られています。3月以降に予定されていた学会はほぼ中止または紙上開催へ変更の判断がされました。本学術総会も1週間遅ければ、そのようにせざるを得なかったことと思います。以下、本学術総会の概略をご報告させて頂きます。

学術総会自体は、初日2月20日の疫学セミナーで「多施設共同コホート研究の運営と成果発表：JACC Studyの経験に学ぶ」、プレセミナーでは「QOL評価の活用方法・疫学研究における身体活動評価入門・疫学×Python」、2日目は「メインシンポジウム・疫学と隣り合う諸科学：共にさらなる発展を」「ランチョンセミナー1（協賛・JMDC）」、社会医学系4学会（日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本疫学会）と日本医療研究開発機構（AMED）の合同シンポジウム「ライフコース疫学基盤の構築と臨床研究への貢献」、3日目は「シンポジウム：データベースの疫学的活用」「ランチョンセミナー2（協賛・三菱総合研究所）」「シンポジウム：疫学におけるバイオバンクの利活用：東北メディカルメガバンクの紹介」「シンポジウム：メディアとの連携WG」、そして特別集会「コロナ肺炎にそれぞれが向き合うために」に至るまで、演者・座長の皆様のお力でいずれも大変密度の濃いセッションとなりました。なお優秀演題として6候補から、ハイレベルの接戦で錦織達人先生（京都大学）、池田奈由先生（医薬基盤・健康・栄養研究所）が選出されました。

座長は日本衛生学会・大槻剛巳理事長（川崎医科大学）、日本公衆衛生学会・磯博康理事長（大阪大学）、そして中山が務め、まずライフコースに沿った個別の研究の概要と課題として、次の4先生にご講演を頂きました（敬称略）。

1. 出生前後・小児・児童： エコチル調査 出生コホート 山縣然太郎（山梨大学）
2. 成人～壮・中年：企業勤務者コホート 溝上哲也（国立国際医療研究センター）
3. 成人～壮・中年：実験系社会医学研究 大槻剛巳（川崎医科大学）
4. 壮・中年～高齢：JPHC・JPHC-NEXTコホート 津金昌一郎（国立がん研究センター）
5. 高齢：JAGES(-NEXT)コホート 近藤克則（千葉大学予防医学センター／国立長寿医療研究センター）
6. 高齢：医療介護データベース・コホート研究 田宮菜奈子（筑波大学）

続いて末松理事長の基調講演を頂き、人間のライフコースを対象とする日本の社会医学のビジョンについて大変活発な意見交換が行われました。図は同じ属の貝でありながら絶滅したアンモナイトと、連続的な内部構造を持って現



在も生き残っているオウム貝です。構造が各ライフステージからコホート研究が立ち上がり、それらが「らせん状」につながって、人生すべてを網羅する未来型社会医学プロジェクトのイメージとして、「アンモナイト構想（または今でも生き続けている「オウム貝」構想）」として、磯博康先生にご提案いただきました。



例年と大きく異なる緊張感の中での3日間でしたが、皆様から多くのご支援、激励を頂き、会期を完了できたこと、本当に感謝の言葉がありません。参加者数は1146名、一般演題数は393題で、いずれも過去最多でした。このような事態で参加者が予想を越えたのは、疫学専門家認定制度、社会医学専門医制度との連携の影響が大きかったものと思われます。

COVID-19 への世界的な不安、社会生活・経済への影響と、残念ながらこの状態はまだしばらく続きそうです。しかし、医学、そして社会医学に携わる者の一人として、関係の方々と力を合わせて、ここから新しい知恵と道を探していきたいと願っております。

本ニュースレターに紙面を頂いたことに感謝し、以上ご報告とさせていただきます。

構成学会の学術総会よりのご報告

第 90 回日本衛生学会学術総会報告

第 90 回日本衛生学会学術総会 会長
 岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座 教授
 坂田 清美



第 90 回日本衛生学会学術総会が令和 2 年 3 月 26 日（木）から 28 日（土）まで岩手県盛岡市の岩手県民情報交流センター「アイーナ」で開催される予定でした。しかしながら、今年になり世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により止む無く誌上開催となりました。

メインテーマは「温故創新」と致しました。「温故創新」は私の恩師の柳川洋先生、橋本勉先生のさらに恩師にあたる重松逸造先生が生前愛していた言葉です。「温故創新」は、論語為政編にある“温故知新”を改変されたもので、歴史に学んで新しいパラダイムを開くという意味です。疫学研究、臨床研究、実験研究により、新しいパラダイムを開きながら、科学的なエビデンスを社会に提供し、今後の国民の幸福に結びつく衛生学の発展に寄与することを願って、決めさせて頂きました。

柳川先生には、基調講演で「温故創新—我が国の疫学の発展と重松逸造先生—」と題してご講演頂く予定でした。重松先生は、健康の疫学、結核の疫学、イタイイタイ病、スモン病、難病、川崎病、放射線の健康影響等幅広い分野の疫学研究に取り組み、わが国の公衆衛生の発展に多大な貢献をされただけでなく、同時に多くの疫学研究者を育て、わが国の疫学の発展にも極めて大きな足跡を残しました。直接柳川先生のご講演をお聴きできなかったことは残念でなりません。

次期会長講演では、稲寺秀邦次期会長（富山大学医学部公衆衛生学講座 教授）に「これからの衛生学と日本衛生学会の使命」と題してご講演頂く予定でした。衛生学会のこれまでの歴史を振り返り、学会誌の役割、日本衛生学会の使命についてご講演頂く予定でした。

教育講演では、上島弘嗣滋賀医科大学アジア疫学研究センター特任教授に「循環器疾患疫学の研究成果と今後の展望—減塩のさらなる推進に向けて—」と題してご講演頂く予定でした。岩手県は循環器疾患の死亡率が高く、循環器疾患の疫学の第一人者である上島先生にご講演頂く予定でした。

また、特別講演（公開講座）として新渡戸稲造研究の第一人者である藤井茂一般財団法人新渡戸基金理事長に「新渡戸稲造の『武士道』に学ぶ」と題してご講演頂く予定でした。公開講座として多くの方に参加頂き、混迷の時代である現代に、新渡戸の普遍的な価値観を学び直す貴重な機会として位置付けていたため残念です。

メインシンポジウムは、清水厚志岩手医科大学医歯薬総合研究所生体情報解析部門教授に、「ゲノム・エピゲノム情報と生活習慣に基づく個別化医療の実現」と題して企画して頂きました。これからの日本衛生学会の発展に繋げるべく、急速に進むゲノム・エピゲノム研究の成果を披露して頂く予定でした。

シンポジウム1では、「魚摂取のベネフィットとリスクのバランスを考える」と題して野村恭子秋田大学公衆衛生学教授と坂本峰至国立水俣病総合研究センター所長特任補佐の座長による長年の研究成果を、仲井邦彦東北大学教授のご指導の下、開催予定でした。衛生学会への貢献が大きな研究であります。

シンポジウム2では、「衛生学における先制医療研究と今後の展望」と題して牟礼佳苗和歌山県立医科大学准教授と武藤倫弘国立研究開発法人国立がん研究センター社会と健康研究センター発がん・予防研究分野ユニット長の座長により、開催予定でした。石川俊平東京大学教授、酒井敏行京都府立医科大学創薬医学特任教授にご講演頂く予定でした。素晴らしい業績の一端をお聴きできる予定でしたが、残念でした。

シンポジウム3では、「日本における最近の低出生体重の現状分析と今後の研究課題」と題して西條泰明旭川医科大学社会医学講座公衆衛生学・疫学分野教授と岸玲子北海道大学環境健康科学研究教育センター特別招へい教授の座長により、開催予定でした。本シンポジウムにより今後の低出生体重のリスク要因の解明と効果的な対策について議論を深める予定でした。

シンポジウム4では、「地球の脅威と恵み」と題して尾島俊之浜松医科大学健康社会医学講座教授と早坂信哉東京都市大学人間科学部教授の座長により開催予定でした。岩手県は温泉資源に恵まれていることから、温泉を科学的に評価しようという視点から企画したものです。

社会医学系専門医指導医講習会では大槻剛己理事長の座長により、本多麻夫埼玉県社会医学系専門医研究プログラム統括責任者(埼玉県衛生研究所 所長)より『『埼玉県社会医学系専門医研修プログラム』の現状および今後に向けて』と題してご講演頂く予定でした。また、大久保靖司東京大学環境安全本部教



第90回日本衛生学会学術総会
The 90th Annual Meeting of the Japanese Society for Hygiene

2020.3.26 THU ~ 28 SAT

会長: 坂田 清美
(岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座 教授)

会場: アイーナ (いわて県民情報交流センター)
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

メインテーマ
温故創新

中尊寺金色堂 龍泉洞 わんこそば 岩手燻角和牛

HOME
学会長挨拶
開催概要
日程表
プログラム
演題採択一覧
参加者・単位のご案内
座長・演者のご案内
参加登録
シンポジウム
市民公開講座
研修会
会場・交通のご案内
協賛・寄付のご案内
リンク
指定演題登録

第90回日本衛生学会学術総会 開催中止のお知らせ

3月26日(木)~28日(土)に開催を予定していた本学術総会は、COVID-19の感染拡大、全国レベルの集会等の自粛、交通機関での移動その他によって、参加者が感染の機会に晒されることを極力避けたいという観点により中止とし、誌上開催にさせていただきます。

学術総会に向けてご準備いただきました関係者の皆さまには、申し訳ございませんが、現在の状況をご理解いただけましたら幸いです。

COVID-19感染の一刻も早い終息と、皆さまのご健康を心よりお祈りいたしております。

【事前参加登録をされている皆さまへ】

本学術総会は誌上開催となりました。

1. 参加費・演題登録料について

事前にお振込いただいた参加費および演題登録料の返金は行いません。

2. 抄録集について

事前参加登録され、参加費をお振込いただいた方へは、後日、抄録集を送付いたします。

3. 懇親会費について

事前にお振込いただいた懇親会費は、振込手数料を差し引いて返金いたします。

手続きにつきましては、後日、運営事務局からメールにてご連絡します。

2020年2月28日

第90回日本衛生学会学術総会

会長 坂田 清美

Information

授より「社会医学系専門医制度及び専門研修プログラムについて」ご講演頂く予定でした。

一般演題も 222 題申込頂きました。折角多くの方に参加頂く予定であったにもかかわらずその機会が実現できず本当に申し訳なく存じます。

学会の準備にあたり多大なご支援を賜りました顧問・企画運営委員の先生方、また協賛・助成頂いた多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今月のお知らせ

3月29日の理事会・総会によって役職者の変更

2020年3月29日に新型コロナウイルス対策のためネット会議を併用しながら、理事会ならびに総会が開催されました。社会医学系専門医協会の業務年度は7月から6月末ですが、通常の企業や組織等々と同様に社会医学系専門医協会を構成する学会や団体においても、3月末で役職その他の変更が生じます。それに伴って、社会医学系専門医協会の役員人事が変更されました。

特に記しておかないとならないのは、発足以来、理事長をお務め頂いていた宇田英典先生が、構成団体である全国保健所長会からの代表という立場を終えられるにあたって、理事ならびに理事長もご退任ということになりました。なお、宇田先生には、今後は監事として経験を踏まえて、本協会の業務について大所高所からのご示唆を頂けることになりました。

全国保健所長会からの理事は、内田勝彦先生がお務め頂くことで、認められました。さらに、全国衛生部長会が鶴田憲一先生から中澤よう子先生に、日本衛生学会は大槻から柳澤裕之先生に交替することが提議され、承認されました。さらに、研修プログラム委員会の森晃爾委員長が退任されて大久保靖司先生が、また指導医・専門医認定委員会の清古愛弓委員長が退任されて前田光哉先生が、それぞれご後任としてご就任頂くことが決定しました。

2020年度の試験分科会の代表は、大神明先生になっております。これらの変更を受け、また、より円滑で多くの観点を踏まえた協会の運営を実施することを鑑みて、理事長の推薦するものを理事会の承認のもとに、理事としてご活躍いただくことになり、上記の前田先生、大神先生、さらに理事会の中で、より実務的な部分も担当して頂く候補者として、小橋元先生が推薦されて承認されました。

宇田先生の理事長のご退任によって、4月からは新理事長として、発足の準備会依頼、実質的に協会を牽引してこられた今中雄一先生に就いて頂くことが承認されました。加えて、これまで今中先生の役職であった副理事長については、大久保靖司先生に就いて頂くことになりました。よって、業務全般や経理と広報などを運営していく業務執行理事会については、今中先生をトップとして大久保先生、小橋先生、前田先生、大神先生と、従来から幹事としてご参加の和田裕雄先生で構成されることになります。なお、実務的な委員長や分科会長をお務め頂いてきた森先生、清古先生には、業務執行理事会の顧問という立場に就いて頂いて、今後とも適切なアドバイスを頂戴するように決めました。

このように発足以来の変更になりますが、2020年度からの新体制で期待と希望を委ねつつ、また、COVID-19に関連しては、特に社会医学系の医師たちは、それぞれの立場で国内の、そして全世界中の苦

難の時期に立ち向かっていると感じています。

新体制の下で、社会医学系専門医協会の更なる発展が期待されます。

広報担当からあとがきに代えて

深謝

川崎医科大学衛生学

おおつき たけみ
大槻 剛巳

ニュースレターを、発足の2017年4月から毎月発刊（2017年の12月号と2018年の1月号は合併号にしましたが……その時点で、月末発刊から、月の上旬の発刊に変更したのです）で担当してきました大槻です。日本衛生学会の理事会内で、副理事長を務めていました2015年から2017年が社会医学系専門医協会担当、さらに2018～2019年度（2020年の3月まで）は理事長という立場で、本協会に関わってきました。3月末で退任となりまして、ご支援頂いてきました皆様に、本紙面の中ですが、謹んで感謝の意を表したく思っております。本当にありがとうございました。

当初、認知度を高めるために、発刊しようということで、PDF形式で毎月協会のWEBにアップしたニュースレターですが、発足から3年が経過し、今後は、メールマガジンなどに変更していくことが重要かと思えます。事務局が2019年の7月から移行した関係もあって、そういった広報体制の変革が遅れてしまっていました。今後、良い方向に充実していくものと思っております。

2015年4月20日でしたが、東京新宿の公衛ビルで、日本衛生学会の副理事長・担当理事として、社会医学系専門医打ち合わせ会に参加したのが、最初のように記憶しております。その時に、時間を見つけて



新宿御苑を散策し、丁度、全国的に悪天候の中、八重桜が雨粒を沢山、花卉に乗せていました。最後に参加した2020年の3月29日はCOVID-19の影響でWEB会議でした。会議の度に楽しみにしていた東京散策は出来ませんでしたので、「三密」を避けて、瀬戸内海と瀬戸大橋を臨む王子が岳（倉敷市と玉野市）へ行ってきました。その写真（曇り空ですが）を紹介しておきます。

長い間、ありがとうございました。

